

# 施設における急変時対応取り組み



 Hakodate  
Koseiin 看護係長 渡邊千恵子

# 1, 施設紹介

## ● 社会福祉法人函館厚生院 特別養護老人ホーム百楽園

### 入所基準 要介護3以上

#### ● 利用人数

〈本体〉

入所

ショートステイ

定員100名

定員 20名

>

介護職員

48名

看護師

7名

嘱託医

1名

〈サテライト〉

定員 20名

15名

1名

## 百楽園(入所)入退園データー

平成29年3月31日現在

		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
退所理由	死亡	21名	95.5%	19名	100.0%	25名	89.3%	22名	95.7%	29名	93.5%	34名	85.0%
	(内看取り)	(17名)	81.0%	(14名)	73.7%	(19名)	76.0%	(18名)	81.8%	(26名)	89.7%	(32名)	94.1%
	施設替え	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	4名	10.0%
	長期入院	1名	4.5%	-	0.0%	3名	10.7%	1名	4.3%	2名	6.5%	2名	5.0%
	在宅復帰	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
死亡場所	園内	19名	90.5%	15名	78.9%	21名	84.0%	20名	90.9%	27名	93.1%	32名	94.1%
	病院	2名	9.5%	4名	21.1%	4名	16.0%	2名	9.1%	2名	6.9%	2名	5.9%
入園者平均年齢			85.1歳		84.8歳		87.1歳		85.6歳		86.8歳		86.1歳
退園者平均年齢			89.9歳		89.5歳		88.9歳		89.0歳		88.8歳		88.8歳
入園者平均介護度			3.76		4.32		3.93		4.19		4.29		41.5

## 2, 急変が起きる前から起きてからの対応について

普段の個人を知る



異常の早期発見, 症状出現



看護師に報告



嘱託医に報告又は約束指示の実施

- 個人を知る(介護、看護とコミュニケーション、連携)
- 異常の早期発見(何か変?の感覚を重く受け止める。  
リスク回避→パン提供日は職員増)
- 症状出現時(看護師の観察力)
- 看護師に報告(昼夜問わず必ず対応)
- 嘱託医に報告(緊急性を判断する)
- 約束指示の実施(FAXを利用し前後の報告)





## POINT

- 急変した場合は家族が延命を望んでいるか  
(入園の際に確認)確認した上で嘱託医に報告し  
指示を頂く
- 家族に搬送＝治療を受ける事を説明し了承を  
得た場合のみ病院搬送

### 3, 意識して努力している事

#### ①病状から救急車が必要かどうか判断する

- 搬送中のリスクを判断する
- 家族から救急車の希望があった場合は根拠を説明し看護師が判断する



## ②異常、異変に気付いたら小さな事でも看護師に報告

- あえて定期的なバイタルは行わない



### ③症状が重篤にならないように日中に対応する 特に金曜日は週末を意識し対応

- 夜勤者の不安の除去、本人の負担の除去



## ④熱発、脱水が予測される場合等は 約束指示で対応



## ⑤小さな状態変化でも必ず家族へ報告 対応の内容を説明し了承を得る

- 施設としてのリスク回避

## ⑥リスクを考えた日常

- 行事



## ⑦適切な時期を判断しターミナルの同意を 文書で得る

- 病気なのか機能低下なのかを医師からの説明と共に看護師が十分に行う
- 家族が気持ちに余裕を持ち後悔のない最期であるように。



## 4, 施設看護師としての役割

### ①介護職員とのコミュニケーション、人間関係を良好に保つ

- 介護職員の情報が必要である事を認識する

## ②観察力を養う

- 訴える事が出来ない！こちら側が異常を見つける

## ③週に1度の往診日を最大限に生かす

- 予測して指示をもらう

## ④介護と看護の記録を同じにしていつでも情報を共有できる体制にする

- 日誌には夜勤時の注意点や観察点を記載、申し送りも同一としている

⑤担当看護師や当番看護師が対応したことは上司に報告、又判断に迷う時は上司に相談できるように環境を整える

⑥状態報告は適時、必ず家族へ報告する事を徹底する

## 5, 医療との連携

- ①救急車を要請する場合は看護師が直接、連絡し状況を説明する
- ②救急車には看護師が必ず同乗する
- ③嘱託医の約束指示を最大限、活用する
- ④施設掛かりつけの個人病院で対応、入院の場合は2次病院を紹介してもらう
- ⑤入院が予測される場合は連携室に依頼

## ○熱発時の坐薬の使い方(ターミナルかどうか) 骨折が疑われる時の対応等

- 日中 → 家族に報告後、施設の車輛で受診
- 夜間 → 必ず看護師が来園し確認をする

### ※ 約束指示で対応

- 固定
- 痛みの除去
- 安静(バルンの挿入)
- 観察の出来る環境
- 家族に報告(明朝の受診の了承を得る)

**\* いずれも受診先の病院が確定してから施設の  
車で看護師同乗で送迎**

## 6, 施設としての今後の課題

- 看護師の観察力、判断力の向上に個々の努力が求められる。
- 休日、夜間に嘱託医から2次病院の指示が出た場合、情報提供書が用意できない場合救急車を依頼せざる得ない場合がある。
- 介護職員の人手不足により医療面における勉強会等の時間が作りづらい

ご清聴、ありがとうございました。

